池野 正晴 教授

【いけの まさはる】

東北大学大学院教育学研究科博士課程前期課程修了。大学附属の学校に勤務の時には、毎年の研究会で、2日間連続の授業公開をしました。全国から教師が参加し、授業後、協議会をもちます。1日目の子どもたちの出方で授業計画は大きく修正を迫られ、翌日の授業までの準備はたいへんでした。学級通信も毎年まとめて冊子にしたものです。現場でのよき思い出です。

- ●教育哲学
- ●カリキュラム論
- ●教育方法学
- ●教育実習Ⅰ・Ⅱ

教師修業は果てしなく

1 学校における授業づくりを考える

○　教育においてどのような世界観や人間像をめざすべきであろうか。

○　どのような力をつけるために、多くの文化遺産からどのような内容を教育の内容として考えていくべきであろうか。

○　考える力や創造力を高めるために、どのような授業づくりをしていったらよいだろうか。

このようなことを明らかにするために、これまで、教育人間学（教育哲学）や授業論、教科教育学の研究を重ねてきました。

特に、授業づくりにおいて、多様な考えを生み出す授業を構想し、その多様な考えをどのようにとらえ、どのようにまとめていけばよいのかについて考えています。授業のコミュニケーション活動について、妥当性、関連性、有効性、自己選択等の用語を用いて授業づくりについて考えています。これまで、フィンランドやアメリカ、イギリス、ドイツ、スペイン、シンガポール、中国等で、いくつかの学校において様々な授業を見てきましたが、この点についてはまだ弱いように思いました。

2 考えることなくして身につくものなし

教職科目を中心に担当しています。教職科目は、教師としての基本的な力量をつけるものです。どの授業にあっても、できるだけ実例を挙げながら具体的に考えてもらうように展開しようと腐心しています。「実際に頭を使って考えることなくして、身につくものなし」です。教室内を回りながらの対話型の授業をめざしています。

3 合同ゼミで本当にやりたい研究を

一つのゼミを3年生と4年生が合同で運営していく形をとっています。4年生は、下級生をリードし、3年生は、自分たちの発表や係の仕事等について、上級生よりアドヴァイスを受けながら、いろいろなことを吸収することができます。3年生の輪読と4年生の卒業論文発表を通して、お互いに刺激を受け、追究を深めていきます。両方の立場も体験でき、学年間の縦のつながりも強くなります。

研究テーマも特に限定することはしないで、自分が本当にやりたいテーマについて深めてもらい、そこからお互いが学び合うようにしています。いろいろな考えをもっているゼミ生がお互いに議論し合うことをたいせつにしています。

池野先生の専門は教育学であり、教育学部のない高経大において教育者を志す者にとってなくてはならない存在です。また、ご自身の学校現場での教師としての体験を授業に活用される点も先生の特徴のひとつです。教育に興味や関心があれば、先生のお話を伺うだけでも刺激的なお話が聞け、確かなプラスになると思います。

池野ゼミ18期生　ゼミ長　鈴木　史哉